

1F-04 動物のアレはどこから来たのか ~ basal modelを使った実験進化生物学 ~

Where did the animal origin and complexity come from? - experimental evolutionary biology using basal models -

日時：11月27日（水） 19:15 -20:30

会場：第4会場（福岡国際会議場 404-406）

講演言語：日本語

オーガナイザー：中嶋 悠一郎（東京大学大学院薬学系研究科）

菅 裕（県立広島大学生物資源科学部生命環境学科）

概要：太古の昔に動物の多細胞化はどのように起こり、神経系はいつ獲得され、複雑な形質がどのように進化してきたのか？多細胞体制や神経系の起源、発生や再生、共生機構の進化を理解する上で、現存動物に近縁な単細胞生物や原始動物（有櫛動物や刺胞動物など）を使った比較解析が有効なアプローチとなる。本フォーラムでは、単細胞ホロゾアや原始動物といった basal model など*を使って、オミクス解析や遺伝子操作、ユニークな実験系を導入した最新の実験進化生物学の研究展開を紹介して議論する。

(*単細胞ホロゾア、褐虫藻、カプトクラゲ、エダアシクラゲ、ムチョウウズムシ etc.)

プログラム

「動物の多細胞体制はどこから来たのか？」

菅 裕（県立広島大学 生物資源科学部生命環境学科）



「褐虫藻がサンゴに細胞壁を介して糖を渡すメカニズムと細胞内共生の進化」

石井 悠（京都大学 大学院農学研究科）



「神経細胞の進化的起源：クシクラゲの研究からわかってきたこと」

渡邊 寛（沖縄科学技術大学院大学 進化神経生物学ユニット）



「刺胞動物エダアシクラゲで理解する再生機構の進化と多様性」

中嶋 悠一郎（東京大学 大学院薬学系研究科）



「珍無腸動物ムチョウウズムシにおける藻類共生系と原始脳による生体制御」
濱田 麻友子（岡山大学 臨海実験所）

